

中国は「近そうで遠い国」？

皆様初めまして、大瀧東生です。この度山西大学国際教育交流学院で1年間の留学をしております。まずは、この素晴らしい機会を与えてくださった埼玉県国際課の方々、ならびに山西大学の皆様に感謝申し上げます。日々忙しく過ごしているうちに、到着から早くも1か月が経過してしまいました。今回のレポートでは、到着から数日間に起きたことや、山西大学および太原市での暮らしについて、少しご紹介したいと思います。

この1か月間は、自分のリスニング力のなさを強く感じる日々でした。僕は日本から上海の浦東国際空港まで行き、そこから国内線に乗り継いで0時過ぎに太原市に到着しました。フライトが遅れたため乗り継ぎはギリギリでしたが、無事に到着できました。夜遅くに送迎に来てくださった学院の先生には本当に感謝してもしきれません。しかし、本当に大変なのはここからです。現地の方の中国語は本当に速く、しっかり理解するためには何回も聞き返す必要がありました。中国語に限ったことではありませんが、実際の会話では教科書のように一つ一つの単語をしっかりと発音することはごく稀です。日本で事前に中国語を学んでいましたが、日常生活のあらゆる場面で自分のリスニング力のなさに気付かされます。地理的には日本から近いはずなのに、言葉が分からないだけで遠く離れている所にいるように感じます。今の僕の中では、中国は「近そうで遠い国」という表現が非常に相応しい国です。

しかしながら、同時に人の温かさに触れた1か月間でもありました。学院に到着してから寮設備の説明を中国語でしていただきましたが、ここでも理解に時間がかかってしまいました。僕が理解できていないことに気付くと、何度も“听懂了吗？(分かりましたか?)”と確認し、その度に簡単な言葉に言い換えたり、ゆっくりと話したりしていただきました。また、翌日以降にSIMカードの契約や銀行口座の開設も行いましたが、ここでも周りの人に助けられました。本科や大学院の留学生に手続きのサポートをしていただいたおかげで、何とか生活できる状態になりました。感謝の気持ちで胸がいっぱいになりつつも、早く中国語を上達させて、一人で問題なく生活を送れるようになりたいというもどかしさも感じました。

次に中国語の授業に関してです。今年度は初級1/2、中級の合計3クラスに分かれて授業を行っています(高級クラスは本科生が対象)。クラス分けテストの結果、私は中級クラスに決定しました。授業は「听力(リスニング)」「口语(スピーキング)」「阅读(リーディング)」「综合(精読をメインとした4技能総合)」の4種類があり、全て中国語で行われています。最初のうちは先生が仰っていることを聞き取るのに一苦労でしたが、不思議と少しずつ聞き取れるようになれました。初級は1クラスあたり約40名と人数が多いですが、中級には20名弱しかいません。そのおかげで一人一人の距離が近く、すぐに仲良くなれました。ま

た、「この表現は正しいか」「聞き取れなかったのもう一度言ってほしい」など、少人数だからこそ気軽に質問できる雰囲気があり、学びやすい環境にあります。

クラスメートは、ラオス・タイ・インドネシアなど国籍が本当に様々ですが、なんと日本人は 1 人だけでした。最初は不安が大きかったですが、今となってはこれで本当に良かったと思っています。その理由としては、自分で意識しなくても中国語を練習できる環境が整っているからです。お互いの共通言語は中国語であり、中国語を話さないと生活ができません。言いたいことがすぐ言えずにもどかしい気持ちになることもあります。これも勉強の一環として日々奮闘しています。

少し長くなりましたが、最後までご覧いただきありがとうございました。まだまだお話ししたいことは沢山あるので、今後も定期的に現地での暮らしについて発信していきたいと思います。また来月お会いしましょう。下个月見！



新入生歓迎の式典の様子



留学生交流会に参加しました



月餅も頂きました